

一味違う！

大阪府で働く魅力を聞きました

考古学技師職 編



その1 世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」を守り、魅力を伝える仕事ができる

- ・「百舌鳥・古市古墳群」は、古墳時代の最盛期にかけて築造された古代日本列島の王たちの墓群で、令和元年7月に登録が決定された『**大阪初**の世界遺産』です。
- ・大阪府は、堺市や羽曳野市、藤井寺市と4者一体となって、世界遺産の構成資産である古墳の保存管理や周辺環境の保全、百舌鳥・古市古墳群の価値理解の促進をめざしたイベントの企画や出版物・動画等の制作に取り組んでいます。



仁徳天皇陵古墳〔堺市〕



白鳥陵古墳〔羽曳野市〕

その2 大学で学んだ知識・技能等を 存分に発揮できる仕事

- ・文化財保護課の業務は、発掘から世界遺産まで多岐にわたります。
また、埋蔵文化財のみならず、建造物や美術工芸、民俗文化財など幅広い分野に対応するため、各市町村ごとの歴史や文化の特質などを感じることもできます。
- ・府内市町村の職員や他職種の職員と接する中で、文化財の保存活用に関するヒントが得られることもあり、入庁後も、自身の専門領域に留まることなく知見を広げ、さらなる研鑽を積むことができます。

先輩の声

- ・行政の発掘調査は、遺跡を選んで調査するのではなく工事予定地で調査をするので、周辺の調査状況等から概ね何がみつかるのか予想できますが、ときには**思いもよらない大発見**があります。
- ・専門的な研究をするだけでなく、自分の専門知識や調査研究の成果を活かし、世の中をより良いものに変えることができる**やりがいのある仕事**です。
- ・考古学の研究者としても、**ひとまわりもふたまわりも成長できる職場**です。
- ・予算などに制約は多いですが、**アイデアや工夫次第で乗り越えてきた実績とノウハウ**があります。
- ・大阪は歴史の舞台になっている場所も多く、**一級資料（遺構・遺物）**に出会えることが多いです。

これまでに大阪府内で出土した埴輪等を ちょっとご紹介・・・



令和2年 3体の埴輪〔盾持人（たてもちびと）・男子像・力士）

- ・大阪府羽曳野線建設事業に先立って行っていた陵東遺跡（羽曳野市と藤井寺市の市境）の発掘調査中に、**現役職員が発見!**
- ・いずれも5世紀後半から6世紀初頭のもので、古代に機能していた溝の中から発見されたことから、後世何らかの理由で破壊され捨てられたものと考えられています。



〔まめ解説〕

- ・いずれの埴輪も目や口などがしっかりと表現され、表情豊か。
- ・中でも盾持人埴輪は、発見されている頭部だけでも**60cm**あり、**全体では人と同じくらい大型**のものと推定。
- ・盾持人は、本来は古墳の墳丘上に置かれ、悪霊から古墳内の被葬者を守る役割が与えられたと考えられています。

当時、

ニュースになった!



昭和60年 仏並遺跡出土土面〔大阪府指定有形文化財：令和2年度に指定〕

- ・仏並遺跡（和泉市仏並町）の発掘調査中に、財団法人大阪府埋蔵文化財協会（現・公益財団法人 大阪府文化財センター）が発見。土製の仮面
- ・遺構内で伴出した遺物の主体時期や土器との製作技術の類似性から、縄文時代後期頃の所産と推測されています。



〔まめ解説〕

- ・カミヤ精霊等を表現したと思われる土製の仮面。
- ・険しい表情の土面が多いとされる中、ほほえんだような表情をしている本資料は貴重で、縄文時代の研究史上においても重要。

**西日本ではじめて
出土が報告された貴重な資料!**

その3 若手職員が活躍できる 活気にあふれた職場

- ・風通しのよい職場環境で、若手職員も多く活躍しています。
- ・大阪府の考古学技師職には女性職員も多く、性別問わず働きやすい職場をめざしています。

先輩の声

- ・若手職員が増えたことで、同年代の仲間が多く、**活気にあふれた職場**です!
- ・専門分野も含め個性豊かな人材が集まっていて、仕事に対する姿勢や職場内での日常会話からも、良い刺激をたくさんもらえます。

その4 府立博物館の特別展示に、アイデアが採用されるかも？！

- ・文化財保護課が所管する府立博物館は府内に2館あり、考古学技師職が「専門学芸員」として勤務しています。

(1) “日本唯一の弥生時代の専門博物館” 府立弥生文化博物館

弥生時代は「日本文化の源流」と言われ、当館には全国の弥生時代を代表する資料が保管・展示されていることから、「**弥生時代の教科書**」とも呼ばれています。

弥生時代を代表する集落跡である国史跡「池上曽根遺跡」に隣接し、サイトミュージアムとしても機能しています。



大阪府立弥生文化博物館 [和泉市]



河内特有の模様の土器も

↑ バックヤードにある収蔵庫の様子



↑ → 興味深い展示物の数々

(上) 中国で出土した銅鏡



(右) 弥生時代の人々の生活を現した模型

弥生文化博物館の学芸員のお仕事の様子

- ・弥生文化博物館では、弥生時代専門という館の特色を生かし、特別展・企画展の充実に努めてきました。全国各地の資料の借用を行い、弥生時代研究の最新の成果を分かりやすく紹介しています。
- ・また、小中学生を対象にした社会科見学等にも力を入れています。



先輩の声

- ・これまでは発掘調査中心の業務でしたが、博物館勤務では、特別展・企画展に向けた資料の調査研究・借用やPRまでできます。大変ではありますが、**とてもやりがいのある仕事です！**
- ・禰宜田館長、秋山学芸顧問をはじめとする博物館スタッフの方々と一体となって働くことで、研究者としても大きく成長できるのではないかと思います。

(2) “日本古代国家の形成過程と国際交流をさぐる” 府立近つ飛鳥博物館

大阪には世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」や「難波宮跡」など古墳時代から飛鳥時代の重要な遺跡が多くあり、当館はその時代の重要な資料を保管・展示しています。

また、当館に隣接し日本を代表する群集墳である国史跡「一須賀古墳群」が「近つ飛鳥風土記の丘」として整備されており、**博物館と史跡を一体的に活用**しています。



実は・・・CM撮影のロケ地になったことも!!

大阪府立近つ飛鳥博物館〔河南町〕

近つ飛鳥博物館の学芸員のお仕事の様子

- ・近つ飛鳥博物館では、特に「近つ飛鳥風土記の丘」を積極的に活用した博物館事業に力を入れています。
- ・近つ飛鳥博物館の展示品には、資料的価値の高いものが多く含まれていますので、それらの歴史的情報をさらに引き出し、広く伝えることに注力しています。



図録校正は、納得いくまで議論します!!

先輩の声

- ・博物館勤務では、特別展・企画展の立案や実施、来館者への展示解説などを行っています。博物館や文化財の魅力を発信できる貴重な職場で、みなさんも一緒に働きませんか？
- ・「研究」が業務の一部として明記されています。もちろん相応の責任は伴いますが、大学で受けた専門的な教育を存分に活かせる、魅力的な職場だと思います！

教えて！

Q. 府立博物館で勤務する職員（学芸員）って、どんなことをしているの？



学芸員 三好さんのとある1日

- 9:00 出勤
- 10:00 企画展展示資料の検討
- 12:15 昼休憩
- 13:00 他館への資料貸出対応
- 15:00 企画展の図録原稿作成
- 17:30 企画展のポスター・チラシ校正
- 18:00 退館



A.

府職員は、各館の特性に応じて、考古資料を中心とした、資料の収集や保管、展示及び調査研究といった**学芸業務のコア部分**（専門的判断・技術的作業等）を行い、それ以外の業務を行う指定管理者の学芸員等と連携して施設運営を行っています。

まさに、自分の専門性を活かして、文化財の活用や調査研究等に携わることができるんです！！

企画した展示について調査研究からPRまで携われる!!